

2023年度技術士 CPD 審査 報告

CPD 審査委員会

技術士 CPD 活動実績は、自己の責任において資質の向上に寄与したと判断できるものを CPD の対象とし、その実施結果を「CPD 時間算定基準」に基づき登録するものである。CPD 審査委員会は、技術士 CPD 活動の内容の質を確保するため、日本技術士会の CPD 登録システム（Pe-CPD）に登録された CPD 記録の定期抽出審査を行い、修正が必要な CPD 記録について、指導内容を審査対象者に個別で通知している。

2023 年度は下表のとおり審査を 3 回行い、それぞれ審査開始の時点で、「対象期間の CPD 時間の合計が多い順」で審査対象者を抽出して実施した。

審査実施回	CPD 記録の審査対象期間	対象者	件数_計
① 2023 年 8 月	6 か月 (2023. 1~2023. 6)	510 名	7, 118 件
② 2023 年 11 月	10 か月 (2023. 1~2023. 10)	360 名	7, 326 件
③ 2024 年 2 月	13 か月 (2023. 1~2024. 1)	300 名	7, 231 件

1. 審査方法

審査は、技術士 CPD ガイドライン^{※1}の「CPD 活動の資質区分・資質項目、形態区分・形態項目」及び技術士 CPD 管理運営マニュアル^{※2}の「CPD 時間算定基準、注意事項」に準拠し実施した。

※1 2023. 5/9 以前の CPD 記録 → (Ver1. 1)、2023. 5/10 以降の CPD 記録 → (Ver1. 2)

※2 2023. 5/9 以前の CPD 記録 → (Ver1. 2)、2023. 5/10 以降の CPD 記録 → (Ver1. 3)

審査委員 10 名により、審査対象者の登録データを 1 件毎（CPD 記録毎）に精査し、修正・改善が必要な CPD 記録については、指導内容のコメントを付けた。

2. 審査対象者の CPD 登録状況

上記 3 回の審査対象者のそれぞれ「審査開始時点」の CPD 記録の登録状況を示す。

(1) CPD 時間

CPD 時間	8月審査	11月審査	2月審査
30以上 40未満	45 名 (8. 8%)	0 名	0 名
40以上 50未満	209 名 (41. 0%)	0 名	0 名
50以上 60未満	113 名 (22. 2%)	127 名 (35. 3%)	0 名
60以上 70未満	62 名 (12. 2%)	101 名 (28. 1%)	118 名 (39. 3%)
70以上 80未満	29 名 (5. 7%)	65 名 (18. 1%)	78 名 (26. 0%)
80以上 90未満	13 名 (2. 5%)	25 名 (6. 9%)	39 名 (13. 0%)
90以上 100未満	6 名 (1. 2%)	16 名 (4. 4%)	18 名 (6. 0%)
100以上	33 名 (6. 5%)	26 名 (7. 2%)	47 名 (15. 7%)
計	510 名	360 名	300 名

CPD 時間 最小/最大	8月審査	11月審査	2月審査
	最小 37 最大 1858	最小 53 最大 475	最小 62 最大 514

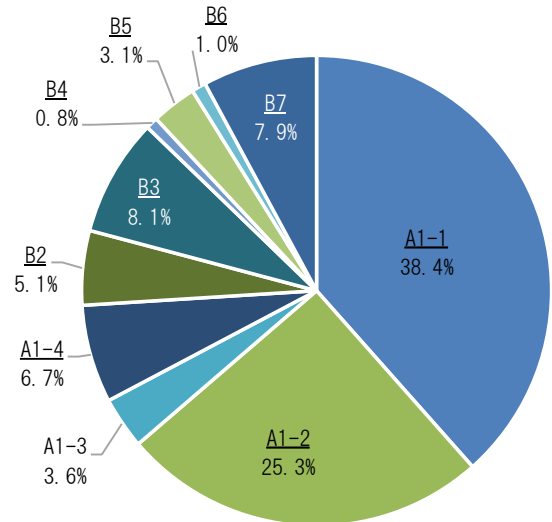
(2) 資質項目

審査対象者の登録データ（3回の審査で計21,675件）の、「資質項目別」の登録件数の割合は次のとおりである。「A1-1 技術部門全般」と「A1-2 専門（選択）科目」の登録が多くを占め、その他の資質項目の登録は、それぞれ10%未満である。

2022年度の審査対象者の登録データと比較すると、ほぼ同じ割合となっている。

資質区分・資質項目		件数	割合
A 専門的学識	1-1 技術部門全般	8,331	38.4%
	1-2 専門（選択）科目	5,479	25.3%
	1-3 法令・規格等の制度	772	3.6%
	1-4 社会・自然条件	1,460	6.7%
B 一般共通資質	2 問題解決	1,105	5.1%
	3 マネジメント	1,755	8.1%
	4 評価	183	0.8%
	5 コミュニケーション	673	3.1%
	6 リーダーシップ	212	1.0%
	7 技術者倫理	1,705	7.9%

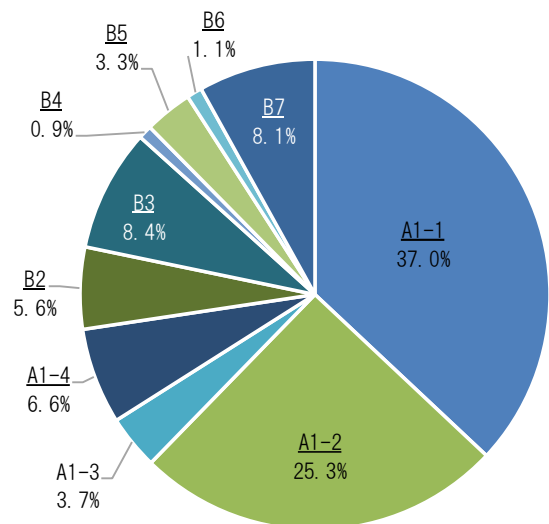
計 21,675



参考：2022年度審査（3回の審査で計15,888件）

資質区分・資質項目		件数	割合
A 専門的学識	1-1 技術部門全般	5,879	37.0%
	1-2 専門（選択）科目	4,020	25.3%
	1-3 法令・規格等の制度	593	3.7%
	1-4 社会・自然条件	1,047	6.6%
B 一般共通資質	2 問題解決	892	5.6%
	3 マネジメント	1,340	8.4%
	4 評価	147	0.9%
	5 コミュニケーション	524	3.3%
	6 リーダーシップ	167	1.1%
	7 技術者倫理	1,279	8.1%

計 15,888



(3) 形態項目

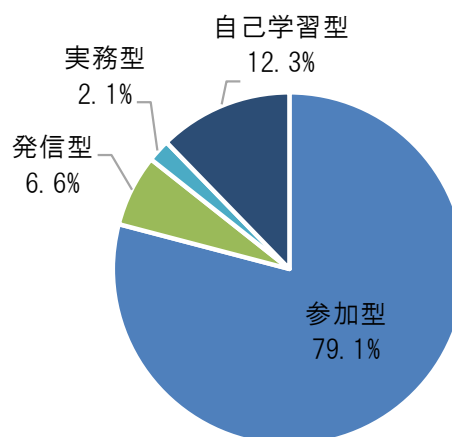
審査対象者の登録データの、「形態項目別」の登録件数の割合は次のとおりである。参加型 CPD の登録が多く、特に「1 講演・研修」の登録が大半を占めている。

2022 年度の審査対象者の登録データと比較すると、「自己学習型」が 5.1%増加し、「発信型」が 3.3%減少している。

形態区分・形態項目		件数	割合
参加型	1 講演・研修	12,309	56.8%
	2 組織内研修	2,678	12.4%
	3 学協会活動	2,150	9.9%
発信型	4 論文・報告文	289	1.3%
	5 講師・技術指導	1,022	4.7%
	6 図書執筆	29	0.1%
	7 技術協力	92	0.4%
実務型	8 資格取得	153	0.7%
	9 業務成果	295	1.4%
※	10 多様な自己学習	2,658	12.3%

計 21,675

※：自己学習型

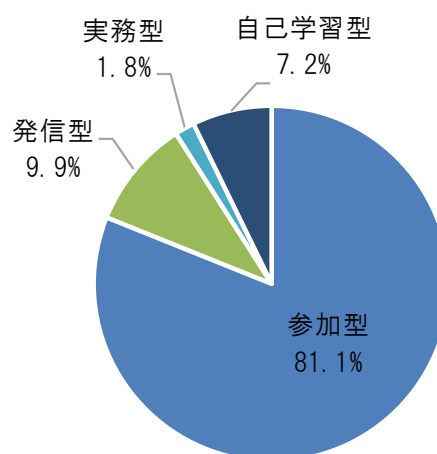


参考：2022 年度審査

形態区分・形態項目		件数	割合
参加型	1 講演・研修	10,058	63.3%
	2 組織内研修	1,734	10.9%
	3 学協会活動	1,088	6.8%
発信型	4 論文・報告文	275	1.7%
	5 講師・技術指導	1,077	6.8%
	6 図書執筆	100	0.6%
	7 技術協力	119	0.7%
実務型	8 資格取得	61	0.4%
	9 業務成果	228	1.4%
※	10 多様な自己学習	1,148	7.2%

計 15,888

※：自己学習型



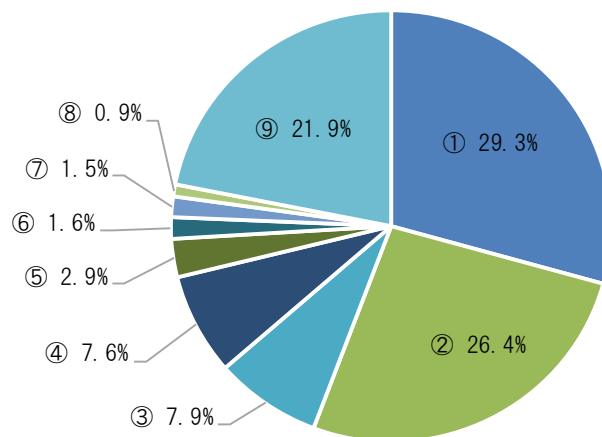
3. 審査結果

2023年度の審査結果を示す。対象データ計21,675件のうち4,545件【21.0%】について修正・改善が必要であり、対象者計1,170名のうち951名【81.3%】へ指導内容のコメントを付けて通知した。

審査実施回	CPD記録の審査対象期間	対象者/件数	うち指導内容あり
① 2023年 8月	6か月(2023.1~2023.6)	510名 7,118件	370名(72.5%) 1,047件(14.7%)
② 2023年 11月	10か月(2023.1~2023.10)	360名 7,326件	303名(84.2%) 1,628件(22.2%)
③ 2024年 2月	13か月(2022.1~2024.1)	300名 7,231件	278名(92.7%) 1,870件(25.9%)
①~③ 計		1,170名 21,675件	951名(81.3%) 4,545件(21.0%)

指導内容(コメント)の分類

指導内容の分類	指導内容の分類										計
	1 講演・研修	2 組織内研修	3 学協会活動	4 論文・報告文	5 講師・技術指導	6 図書執筆	7 技術協力	8 資格取得	9 業務成果	10 多様な自己学習	
① CPD内容などの記入不足	424	368	31	73	136	9	20	2	34	235	1,332 (29.3%)
② 実施形態(登録コード)が異なる	276	110	104	66	95	3	7	24	8	508	1,201 (26.4%)
③ 実時間を多く計上	229	27	28	10	12	2	2			48	358 (7.9%)
④ 事務的案内などCPDとして不要な記述がある	295	17	18	1	2		1		1	10	345 (7.6%)
⑤ 同一内容を重複して計上又は他と実施時間が重複	80	27	5		6				2	10	130 (2.9%)
⑥ 年度の途中で通年活動をまとめて計上			73								73 (1.6%)
⑦ CPD計上できない内容	3	12	5		15			15	4	16	70 (1.5%)
⑧ 2つの形態項目に分けて計上する必要がある	26		6	1	3					5	41 (0.9%)
⑨ その他	419	166	108	25	80	3	6	17	21	150	995 (21.9%)
計	1,752	727	378	176	349	17	36	58	70	982	4,545



4. 総評

2022年度より技術士 CPD 管理運営マニュアルの CPD 時間算定基準・注意事項に基づき登録することになり、2023年度の途中（5月10日付）で注意事項を改訂した。2023年度の審査においても、旧ガイドラインに基づく登録が一部みられ、また最新の注意事項に基づいていない登録がみられた。間違った登録をなくしていくためには、新しい CPD 時間算定基準・注意事項の周知を引き続き徹底する。

また、2022年度及び2023年度の審査を通じて確認した CPD 実績登録の状況を踏まえて CPD 時間算定基準・注意事項をより適切な内容に改訂していく必要があり、以下の項目について改訂を提案する。

- ① 「CPD 内容などの記入不足」は、「Pe-CPD 講演録画の視聴」を【100 講演・研修】で計上するのに必要な所見の記入がなかったものが多い。本件は注意事項の周知により対応するが、受講確認のできない「Pe-CPD 講演録画の視聴」は COVID-19 拡大の影響に伴う臨時運用対応として【100 講演・研修】での計上を認めてきた経緯がある。【100 講演・研修】は受講確認ができるエビデンスがあることを原則としており、昨今はオンライン開催の講演会が増え、参加も容易であることに鑑み、「Pe-CPD 講演録画の視聴」を【010 多様な自己学習】に移行する。
- ② 「実施形態（登録コード）が異なる」は、学協会の会誌購読を【010 多様な自己学習】で計上しているケースが多い。【320 学協会の会誌購読】の年度上限が10CPD時間であることから、複数の学協会の会誌購読をしているケースについては【010 多様な自己学習】でも計上できるようにする。
- ③ 「その他」の指導内容には長期間にわたる研修や自己学習などで実時間の妥当性が確認できないものが多く含まれた。【100 講演・研修】および【200 組織内研修】の注意事項「2日以上連続して受講した場合は、1日ごとに分けて計上する。」を「2日以上連続または継続して受講した場合は、1日ごとに分けて計上する。」と改めるとともに、【010 多様な自己学習】については「原則として1日ごとに計上する。」ことを注意事項に追加する。
- ④ 指導内容には該当しないものの、【200 組織内研修】、【510 非常勤講師】、【530 修習技術者等への指導】など単一の形態項目で50CPD時間を超える計上がみられた。技術士 CPD においては多様な形態項目の研さんが望ましいことから、他の学協会の CPD 基準も参考にしうえて、推奨時間（50CPD時間）内で年度上限を設定する。なお、【510 非常勤講師】は大学生等に対する講義であり、修習技術者等に対する技術指導と同等と考え【530 非常勤講師】に移行する。
- ⑤ 一部ではあるが CPD 時間算定基準にない「ポスター発表」や「災害調査への参加」を計上しているケースがあり、他の学協会の CPD 基準を参考に CPD 時間算定基準に追加する。
- ⑥ 【420 学術論文の口頭発表（学協会主催）】は旧ガイドラインにはなく、10～15分程度の学会発表が他学協会に比べて非常に低い位置づけとなっていたため新設した項目であるが、幅広に解釈されるケースがあり発表時間ではなく1件当たりの CPD 時間に変更する。
- ⑦ 【920 特許出願】について【431・432 論文・報告文の掲載】と同様に「1件当たりの CPD 時間を関係者で貢献度に応じ配分し計上する。」ことを注意事項に追加する。

以上